

hu+gMUSEUM (ハグミュージアム)

人とガスが出会うと、ぬくもりが生まれる。未来が生まれる。

- 所在地：大阪市西区千代崎3丁目
- 用途：展示施設
- 建築主：大阪ガス株式会社、大阪ガス都市開発株式会社、株式会社オーグスポーツ
- 設計者：株式会社安井建築設計事務所

- 敷地面積：3,866.85㎡
- 建築面積：2,953.98㎡
- 延べ面積：10,148.55㎡
- 構造：鉄骨造
- 階数：地上5階
- CASBEE評価：Sランク/BEE値3.9
- 重点評価：CO₂削減4.0/省エネ対策5.0
みどり・ヒートアイランド対策4.0



【立地、周辺環境】

大阪ガス発祥の地であり、京セラドーム大阪に隣接する岩崎地区の玄関口となる場所に位置する。市営地下鉄、阪神駅の入出口正面であり、イオンモールやホームセンターの開発が完了し、以前に比べてより多くの人が集まる、にぎわいの集まる大阪を代表するエリアとなっている。

【総合的なコンセプト】

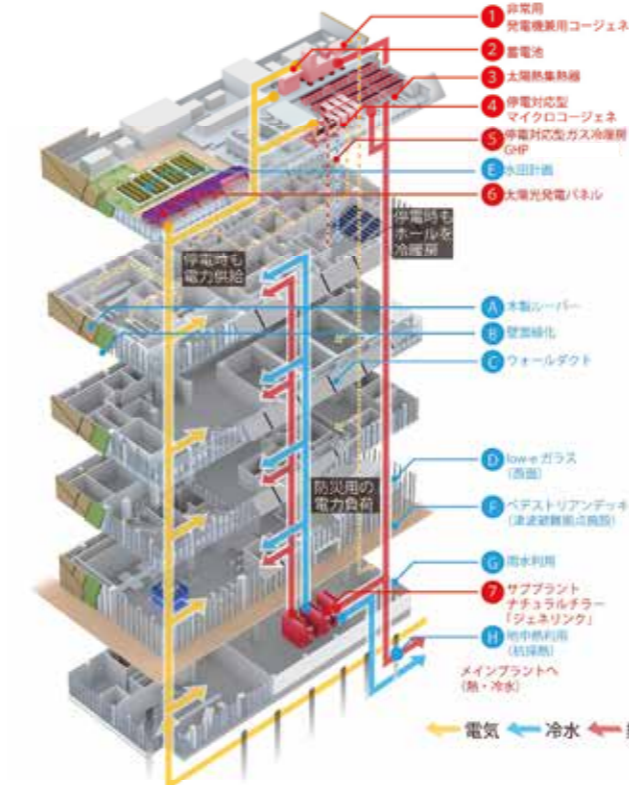
大阪ガス発祥の地であり、京セラドーム大阪に隣接するにぎわいある場所での食と住いの新たな情報発信拠点となる提案型ショールーム。施設名称の hu+g (ハグ) は「human+gas」、人とガスが出会う場であり続けたいという想いをこめ、ガスが本来持つ価値である、人を幸せにする「ぬくもり」と、その先にあるあたたかな「未来」を実現する場所となる。「人とガスが出会うと、ぬくもりが生まれる。未来が生まれる。」をコンセプトとした最先端の環境技術と周辺地域も含めたスマートエネルギーネットワークの形成、災害時の津波避難拠点となるペDESTリアンデッキによる人と地球に優しい環境建築である。

建物断面構成図

最先端の環境技術による人と地球に優しい hu+gMUSEUM



環境配慮事項とねらい



【周辺施設も含めた地域全体のスマートエネルギーネットワークの形成】



【屋上水田での地元小学生による田植えを通じた環境学習プログラムの実施】



【1階エントランスに設置した大阪ガス発祥の記念碑とガス灯】

CASBEE-S ランクを実現する環境システム 建築デザインとの統合

建築面では外壁と金属パネルの間に空気層を形成し、室内環境を向上させる「ウォールダクト」の採用や、再生木材を利用したルーバー、壁面緑化等による意匠性と環境性を兼ね備えた統合デザインを実施している。

自然エネルギーの最大利用とエネルギーの見える化
太陽熱集熱パネル、太陽光発電パネルの設置や年間を通して安定した地中熱を利用する杭探熱による自然エネルギーの利用と、もっとSAVEを利用したエネルギーの見える化を実施。

災害時も継続利用できるエネルギーシステム
停電対応型のマイクロコージェネおよびGHPにより災害時に電力供給が途絶えた際にも一部の空調、照明、給排水、トイレ、厨房機能を維持できるエネルギーシステムを実施。津波避難施設指定されている2階ペDESTリアンデッキと併せて地区全体の機能維持を図る。



地域全体でスマートエネルギーネットワークの形成と 国内初の特定電気事業によるエネルギー事業の新たな第一歩

hu+gMUSEUMは、岩崎地区スマートエネルギーネットワークを構築するガス発電機器を有し、地域全体の省エネルギーを実現するため、建物で造られたエネルギー(熱・電気)を地域内に融通し、最大限に有効利用する最適制御を実施している。隣接するホームセンターで作られた熱エネルギーを1階地域熱供給サブプラントで受け入れ、余った熱エネルギーをメインプラントに融通することで地域全体の効率的な熱利用を行っている。また、大阪ガスの発電所で作った電気を系統電力の送電網を経由して調達する国内初の特定電気事業が運用されており、hu+gMUSEUMの発電設備により地区内で電気の使用量をコントロールしている。

水田での田植えを通じた環境学習
大阪ガスでは世代を担う子どもたちを対象としたキッズ応援プロジェクト「エネルギーキッズ」を推進し、エネルギーや環境についての学習、スポーツや調理の体験など、様々な体験をする機会を提供している。hu+gMUSEUMの屋上設置した、約120㎡の水田と約12㎡の畑では農作業に馴染みの少ない大阪市内の地元小学生による田植えイベントを実施し、都市の屋上で子どもたちに貴重な体験環境学習の一環として、お米が育っていく様子を観察できる機会と育稲作業の体験機会を提供している。秋には炊飯調理hu+gMUSEUM4Fキッチンスタジオにて実施している。トンボやアメンボ等の昆虫や微生物の生息も見られ、生物多様性の確保にも貢献している。

歴史の継承 (大阪ガス発祥の歴史)

計画地は大阪ガス発祥の地であり、1905年(明治38年)に岩崎町に完成した設備は、スエズ以東最大のガス製造工場と呼ばれるほど大規模なものであり、ここから大阪市内(3200戸余の住宅)へガス供給を開始したその年の10月19日は市内に初めてガスによる明かりがともされた歴史的な意味を持つ日と言える。歴史継承の象徴として、エントランス横に2灯のガス灯を象徴的に設置・点火し、既存の大阪ガス発祥の記念碑と併せて歴史を感じる外構とした。記念碑周りには今回工事で地中から発掘された当時の大阪ガス工場にて使用されていたレンガを再利用した。